

大学機関リポジトリの展望と将来像

広島大学図書館長

位藤邦生

2006. 8. 28

発表概要

1. INU図書館会議出席
2. マルメ大学・ルンド大学・ゲント大学・コペンハーゲン大学・ウィーン大学の場合
3. 機関リポジトリ・リポジトリ・データベース・電子出版・E-learning等
—境界の曖昧性—
4. 大学と大学図書館／アメリカとヨーロッパ
5. 大学図書館における「動向」
6. 機関リポジトリの将来と諸課題

1. INU図書館会議出席

- INUと広島大学
- INU図書館会議(2006. 4. 26)
- 話し合われたこと
- マルメ大学の図書館とマルメ市立図書館



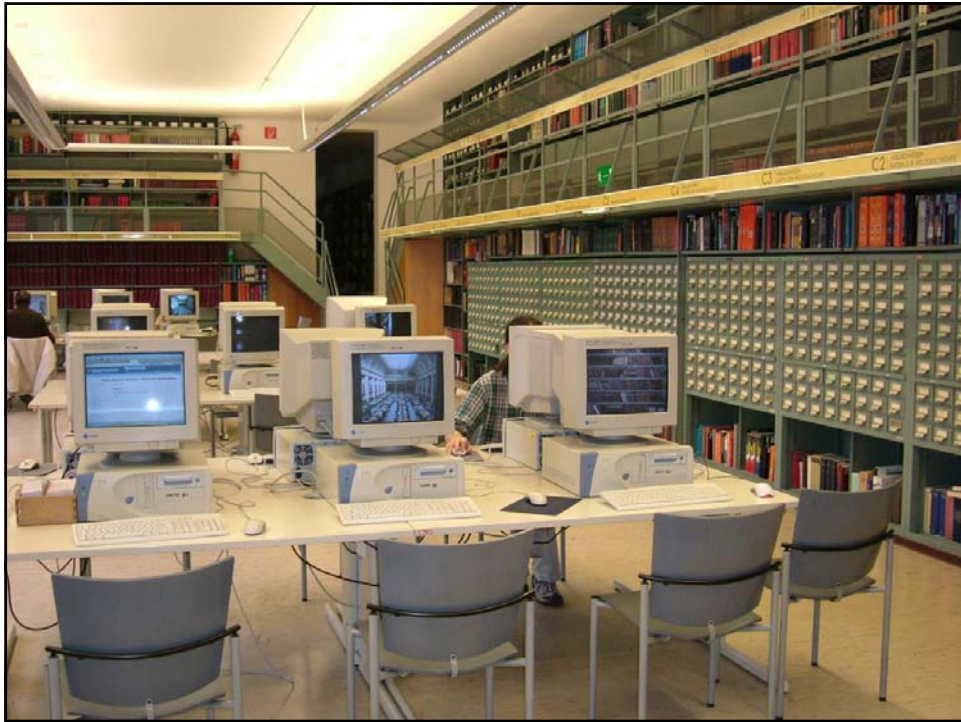


2. マルメ大学・ルンド大学・ゲント大学・ コペンハーゲン大学・ウィーン大学 の場合

- 研究大学と学士課程教育大学
- マルメ大学とルンド大学 附・ウプサラ大学
- コペンハーゲン大学とウィーン大学
- ゲント大学とヨーロッパの大学事情









3. 機関リポジトリ・リポジトリ・データベース・ 電子出版・E-learning等 —境界の曖昧性—

- 機関リポジトリの特色
カリフォルニア大学バークレー校とスタンフォード大
学の場合
- リポジトリの役目と多様性
- データベース・電子出版・E-learning等
—境界の曖昧性と共棲—

4. 大学と大学図書館／アメリカとヨーロッパ

- 大学の使命と大学図書館
- リポジトリ構築への姿勢
—アメリカとヨーロッパの相違、日本の場合—

5. 大学図書館における「動向」

- ハイブリッド図書館の実現
—紙媒体と電子媒体の共存を目指して—
- 蔵書目録の電子化と遡及入力
- 「動向」の把握と認識
—根本を問うことの大切さ—

6. 機関リポジトリの将来と諸課題

- 再び「根本を問うこと」
人文科学分野とリポジトリ
フリンダース大学とルンド大学の場合
- 機関リポジトリ構築への図書館の貢献
- 大学における機関リポジトリの役割